

PDエアロスペース 宇宙機開発の支援者獲得へ

8月にデモ機飛行

2008.05.26

低価格「旅行」実現めざす

中部経済 ⑭

宇宙機開発を目指す
PDエアロスペース

ールし、スポンサー獲得につなげる考えだ。

開発は、機体の軽量化に取り組んでいる。

（本社名古屋市中区有松町橋東南二六ノ四、緒川修治社長、電話052・621・6996）は、八月のテスト飛行へ向け、デモ機の製造を進めている。秋田県能代市で開かれる「宇宙イベント」で、独自の開発技術をアピ

〇七年に、低価格の宇宙旅行の実現を目的に設立した。当初から開発資金を調達するため、地域イベントで事業の構想を披露するなど、スポンサーを募る活動を続けてきた。また、一口一円で、個人からの支援も受け付

けられている。

開発は、機体の軽量化に取り組んでいる。ガスが充満した燃料タンク内を爆発させる「パルス燃焼」により、

空気がない領域まで機体を飛ばす手法を確立すれば、エンジンの簡素化で全体が軽くな

り、製造コストも大幅に削減できるといふ。

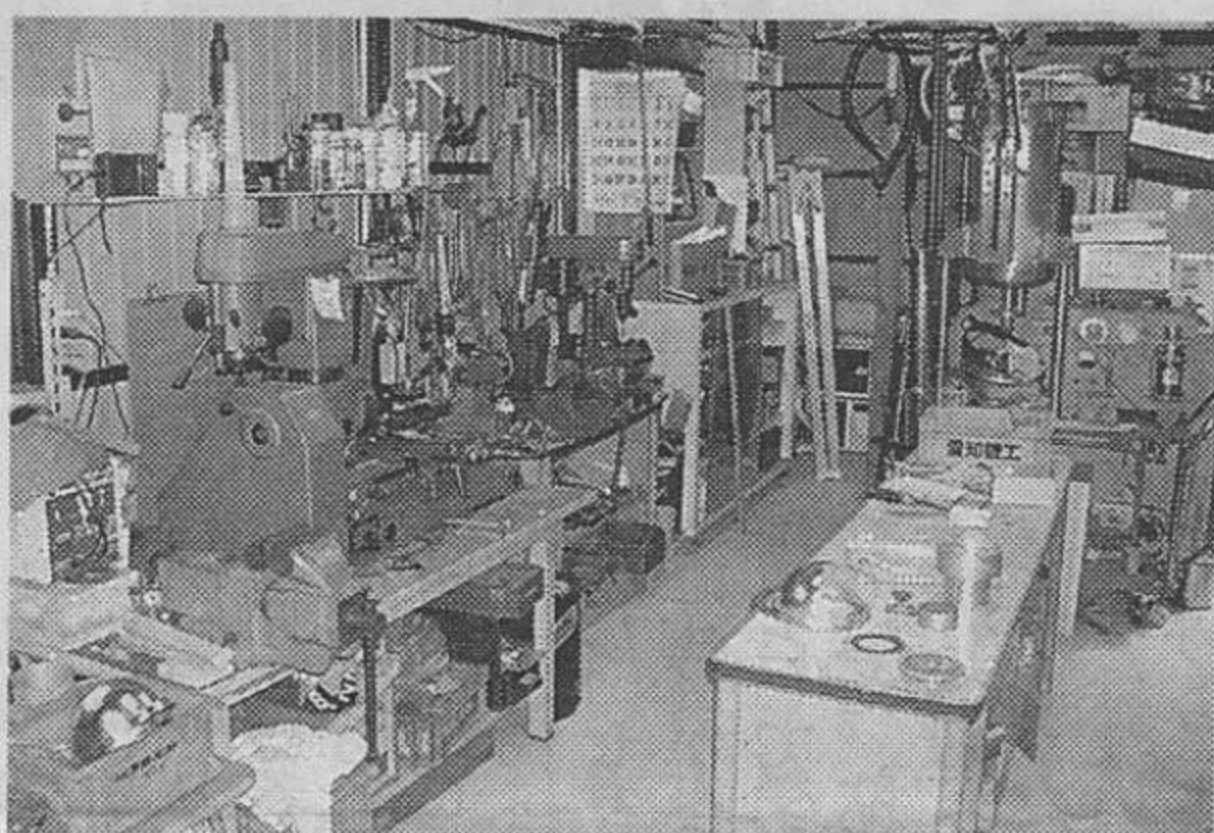
た、一口一円で、個人からの支援も受け付

けられている。

けられている。

けられている。

デモ機の開発を進める研究所



悩みながら臨むテスト飛行は、まさに事業の第一関門。その成否に、今後の開発の継続がかかっている。

緒川社

長は「こ

れまで支

えてくれ

六年後をめどに、宇宙機の運航まで手がけたい」と話していた。

る計画だ。資金繰りに